

## 院長からのメッセージ

院長 石黒英昭



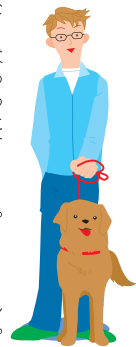
暑い夏も終わり、人も動物も過ごしやすい季節になりましたね。最近診察していて気が付いた点は、アレルギーという病気が増えたことです。人同様アレルギー性鼻炎、結膜炎、特に動物は皮膚炎が多くみられます。食物、草、花粉、ハウスダスト、ノミなどさまざまな物質に過敏に反応し症状がでます。特に耳、目、口まわり、脇下、内股など皮膚が赤くなったり、かゆがるときは要注意です。遺伝的要因もありますが、免疫力が低下しているのかもしれないですね。低アレルギーの食事、薬浴シャンプー、血液でのアレルギー検査などがありますので、ご相談下さい。



## 他のワンちゃんと仲良くできない・・・

### ■ワンちゃんの性格について

ワンちゃんの性格は、もともとの気質もありますが、成長していくうえでの経験が大きく影響してつくられていきます。最も重要な時期は、社会化期(3～12週齢)にあたりとわれています。仔犬が自分の気の向くままに行動し、それに対して母犬や兄弟犬が「良いこと」や「悪いこと」を教えることによって、社会性を身につけていくのです。この時期にこういった刺激を受けずに成長すると、大人になった時に仲間と協調して生活していくことが難しいワンちゃんになってしまいます。できるだけ多くの“人”や“ワンちゃん”や“その他の動物”とふれあって刺激を多く受けさせることで、他のワンちゃんとも仲良くすることができるでしょう。

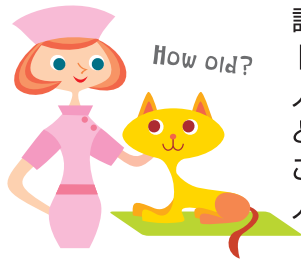


### ■他のワンちゃんに出会ったら・・・

飼い主さんが散歩の途中で他のワンちゃんに出くわした時に「まずい」「怖い」などと思ってしまうと、ワンちゃんも同じような気持ちになって“ご主人様を守らなきゃ!”と吠えてしまうこともあります。ワンちゃんを落ち着かせるには、まず飼い主さん自身が落ち着くことです。他のワンちゃんに飛びつくようなら「おすわり・ふせ」など指示を出して、飼い主さんも側にしゃがんで落ち着かせるようにして下さい。ワンちゃん同士を近づける場合、まず相手のワンちゃんの年齢を聞き、自分の犬が年下なら体を抑えて、先にお尻の匂いを嗅がせて下さい。このとき振り返って目を合わせないように、首もしっかり固定して下さいね。

慣れてきたら公園などワンちゃんたちが集まる場所へ連れて行ってあげましょう。怖がっているようなときには、無理に近づけたりせず、できるだけ楽しい雰囲気であまりながら、徐々に近づくようにするといいでしょう。決してあせらず、ワンちゃんのペースに合わせてあげることが大切です。

## ワンちゃん、ネコちゃんの健康診断



診察をしていると

「うちのワンちゃん、ネコちゃんは人間でいうと何歳ぐらいですか?」という質問をよく受けます。ここでワンちゃん、ネコちゃんと人間の年齢をみてみましょう。

イヌ・ネコの年齢換算表			
イヌ・ネコの年齢	人間の年齢にすると	イヌ・ネコの年齢	人間の年齢にすると
2ヶ月	3歳	10歳	56～60歳
6ヶ月	9～10歳	11歳	63～64歳
1歳	15～18歳	12歳	68～69歳
2歳	22～24歳	13歳	71～73歳
3歳	27～28歳	14歳	77～78歳
4歳	31～33歳	15歳	80～82歳
5歳	36～37歳	16歳	85～87歳
6歳	41～42歳	17歳	89～91歳
7歳	45～46歳	18歳	93～96歳
8歳	48～51歳	19歳	98～100歳
9歳	54～55歳	20歳	100～105歳

上記が示すように、ワンちゃん、ネコちゃんも1年で人間の年齢からみると4～5歳年をとってしまいます。当院も平成12年7月に開業して6年が経ちますが、小さいときから来院しているワンちゃん、ネコちゃんも6歳。人間で言うと40歳を過ぎちょっと中年の域に入ってきましたね。人間同様動物も年齢を重ねるごとに、色々な病気が出てくる事が多くなってきます。当院では、病気になってから治すのではなく、早期発見、早期治療を目的とした健康プログラムを実施しています。



6歳を過ぎたワンちゃん、ネコちゃんは年1回の健康診断をお薦めしています。詳しいパンフレットは院内においてありますので、お気軽にお訊ね下さい。

## 健康診断プログラム・検査内容

1. 身体検査
2. 血液検査 (血球検査、生化学検査)
3. 尿検査 (尿スティック紙)
4. 糞便検査 (虫卵)
5. 胸部・腹部レントゲン
6. 心電図検査

## 検査についての説明

### 1. 身体検査

健康状態、耳、眼、鼻、口の中などを詳しくチェックする。

### 2. 血液検査 (血球検査、生化学検査)

#### ●血球検査器



赤血球  
白血球  
ヘマトクリット値  
ヘモグロビン値  
貧血の有無  
炎症の示唆

#### ●生化学検査器



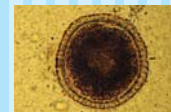
肝機能 → GPT  
ALP  
腎機能 → BUN  
CRE  
栄養状態 → TP  
ALB  
血糖値 → GLU  
体液バランス → Na-K-Cl

### 3. 尿検査 (尿スティック紙)



スティックに尿をつけて調べる。  
尿比重・白血球・細菌・蛋白質・ブドウ糖・ケトン体  
ウロビリノーゲン・潜血・PH

### 4. 糞便検査 (虫卵) よく見られる虫卵と成虫

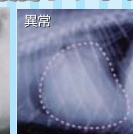


回虫卵



回虫

### 5. 胸部・腹部レントゲン



【症例】  
7歳以上のワンちゃんに多い  
僧帽弁閉鎖不全症 (ニュースレーター2号で説明)  
正常のレントゲンと比較すると心臓が大きくなっている。

### 6. 心電図検査



心電図とは、心臓の動きを電氣的にとらえ、その記録を取るもの。

上記の基本検査で異常が見られる場合は、飼い主さんと相談しながら追加検査を行っていきます。

### 《追加検査内容》

- 血液検査の追加
- 超音波検査
- 内視鏡検査
- 特殊X線検査など